

2023年7月7日

2023年度・公式規則変更内容・決定報 (全 11 頁)

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
競技規則委員会



アメリカンフットボール公式規則を以下のように変更します。

- [1] 2023年度・公式規則変更主要項目の解説は、今年の公式規則変更を解説したものです。
- [2] 2023年度・主な編集上の変更項目の解説は、今年の主な編集上の変更を解説したものです。
- [3] 2023年度・公式規則変更は、今年変更される条文を掲載したものです。

この公式規則変更は2023年秋季公式戦より適用します。

[1] 2023年度・公式規則変更主要項目の解説

2023年度の公式規則変更主要項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の()内の英数字は、この変更が行われる公式規則の、2022～2023の公式規則・公式規則解説書における主たる「篇一章一条」を表します。

(1) ドローンの使用に関するポリシーの追加

- ☆ 従来、プレー場内でのドローンの使用に関する規定はなかった。
- ★ 本年より、登録選手がプレー場内にいるときに、フィールドおよびチーム エリアの上空にドローンを飛行させることは禁止となる。リミット ラインの外側での飛行については、試合運営責任者(あるいは運営団体の規定)により、ドローンの使用が決定される。これには関連法規等に従うことを含む。

(1-4-11-d 追加)

(2) 前後半の間の休止時間(ハーフタイム)に関する規定の追加

- ☆ 従来、前後半の間の休止時間(ハーフタイム)についてはその長さが規定されていたが、その時間配分に関する規定はなかった。
- ★ 本年より、ハーフタイムについて以下が規定される。ハーフタイムの時間配分は試合運営責任者によって決定される。ただし、後半のキック オフの3分前までには登録選手がフィールドを使用できるようにしなければならない。ハーフタイムに登録選手がプレー場内に立ち入る時は、そのチームのスタッフもフィールドにいなければならない。フィールドが使用可能となる前にキッカーあるいは他の登録選手がプレー場内に立ち入る場合、その活動はチーム エリア内に限定される。すべてのチーム関係者は、予定された催しを尊重しなければならない。フィールドが使用可能となるまでは、キックの練習はキッキング ネットを使用しなければならない。

(3-2-1-c 追加)

試合運営責任者によって決定された前後半の休止時間中、選手が利用可能となる時間は、フィールドは30 ヤード 地点から「L字型」に区切られることが推奨される。(参照:付録 D)

(「スポーツマンシップについて」4 項追加)

(3) 節の延長の規定の変更

- ☆ 従来、時間終了となったダウンで、ライブ ボール中の反則に対する罰則が受諾された場合、オフセッティング ファウルがあった場合、審判員が不用意なホイッスルを吹いた場合、または審判員がボール デッドのシグナルを誤って出した場合は、計時しないダウンとして節の延長を行っていた。
- ★ 本年より、節の延長は第 2 節および第 4 節のみで行い、第 1 節および第 3 節では節は延長されず、罰則の施行は次の節に持ち越される。 (3-2-3-a 変更)

(4) 計時の開始と停止の規定の変更—第1ダウンが与えられた場合

- ☆ 従来、A チームに第 1 ダウンが与えられた場合、ゲーム クロックの計時は停止された。
- ★ 本年より、前後半の残り 2 分未満を除き、A チームに第 1 ダウンが与えられた場合でも、ゲーム クロックの計時は停止されない。前後半 2 分未満では、従来通り計時停止となる。 (3-3-2-e-1 変更)

(5) 連続したチーム タイムアウトの規定の変更

- ☆ 従来、デッド ボール中に、複数のチーム タイムアウトを取ることは認められていた。
- ★ 本年より、ひとつのデッド ボール中に各チームが取ることができるチーム タイムアウトは 1 回のみとなる。 (3-3-4 変更)

(6) インスタント リプレーをブースで担当する審判員がいない場合のインスタント リプレー

- ☆ 従来、インスタント リプレーを採用する場合、公式規則第 12 篇を遵守しなければならないと規定され、インスタント リプレー担当者が必要であった。
- ★ 本年より、インスタント リプレーをブースで担当する審判員がいない場合でもインスタント リプレーを採用することができる。ただし、いくつかの例外を除き公式規則第 12 篇を遵守しなければならない。 (12-2-1-c 追加)

[2] 2023年度・主要な編集上の変更項目の解説

2023年度・主要な編集上の変更項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の()内の英数字は、この変更が行われる公式規則の、2022～2023の公式規則・公式規則解説書における主たる「篇一章一条」を表します。

(1) フォワード パスの規定の明確化

- ☆ 従来、パサーの近くを横切るプレーヤーへボールを軽く放り上げることについての規定はなかった。
- ★ 本年より、パサーがボールをフリップする(軽く放り上げる)ことは、それが明らかに後方へのフリップではない限り、正当なフォワード パスと規定される。 (参照: A.R. 7-3-1-I および II)

(2) 腰より下へのブロックの規定の明確化

- ☆ 従来、最初の位置が完全にタックル ボックスの中に入っているラインマンは、スナップ直後のチャージで、タックル ボックスの中で、横方向を含め正当に腰より下へのブロックをしても良いと規定されていた。

腰より下へのブロックが許されるバックのスナップ時の位置は、タックル ボックスの中で静止していることと規定されていた。

また、チーム確保の変更前の B チームのプレーヤーによるボール キャリアに対する腰より下へのブロックは反則ではなかった。

- ★ 本年より、最初の位置が完全にタックル ボックスの中に入っているラインマンは、スナップ後の最初のチャージで、タックル ボックスの中で、横方向を含め正當に腰より下へのブロックをしてもよい。本内容は、B チームのプレーヤーによる腰より下へのブロックについても同様となる。

(9-1-6-a-1 および 9-1-6-b-1 変更)

腰より下へのブロックが許されるバックのスナップ時の位置は、身体の一部がタックル ボックスの中に入っており静止していることと規定される。

(9-1-6-a-2 変更)

チーム確保の変更前の B チームのプレーヤーによるランナーに対する腰より下へのブロックは反則ではないとされる。

(9-1-6-b-2 変更)

腰より下へのブロックを行うとき、プレーヤーの足等の一部がタックル ボックスの中に入っていれば、タックル ボックスの中でのブロックとみなされる。本内容は、B チームのプレーヤーによる腰より下へのブロックについても同様となる。

(参照: A.R.9-1-6-XI)

(3) キッカーの保護が終了する条件の追加

- ☆ 従来、スクリメージ キック フォーメーションのキッカーは、タックル ボックス内で保護が継続されていた。
- ★ 本年より、スクリメージ キック フォーメーションから、キッカーがスナップ時の最初の位置に対して 5 ヤードより後方にボールを運んだ、あるいは 5 ヤードより後方でボールを確保した場合、キッカーの保護は終了する。

(9-1-16-a-4-(c) 新規)

[3] 2023年度・公式規則変更

本年度変更される条文は次のとおりです。この公式規則変更は2023年秋季公式戦より適用します。記載は、次の規則に従っています。

- ① 「篇章一条」の後の(新規)、(追加)、(変更)、(削除)、(移動)は()内の事項が行われた事を示し、それに続く規則文は新変更文である。なお、新規、追加、変更の各用語は次の原則で使用する。
新規: 篇章一条、あるいはその下位の項目の単位で、新規に条文が定められた場合。
追加: 文の単位で新たに条文が定められた場合。
変更: 一つの文の中で、条文の変更(単語等の追加を含む)が定められた場合。
なお、新規、追加、変更、削除等が混在する場合は、変更として扱う。

- ② 下線部は、変更、追加が行われた場合にその部分を示す。

「スポーツマンシップについて」 2023年3月: 4項を追加

前後半の休止時間中に、試合運営責任者によって決定された、選手が利用可能となる時間は、フィールドは30ヤード 地点から「L字型」に区切られることが推奨される。(参照: 付録 D)

- 1-2-1-h-2 (変更) 商業組織体または個人がスタジアム、施設またはフィールドの命名権を保有している場合、商業組織体または個人の名称あるいは商業ロゴをフィールドの中心以外の場所に2ヶ所まで描くことが許される。これは公式規則1-2-1-fの4ヶ所の装飾の内の2ヶ所としてカウントされる。
- 1-3-2-h (変更) ボールがプレーに移される前に、レフリー~~《または》~~アンパイヤまたはセンター ジャッジは、そのボールの正当性を確認しなければならない。
- 1-4-4-d (削除) ニー パッド: ニー パッドはパンツ内にしまわれていること。パンツおよびニー パッドは膝を覆っていること。いかなるパッド、プロテクターも、パンツの外に着用してはならない。(参照: 付録E)
~~《2023年度より、2つ目の文章は公式規則1-4-4-hとあわせ、次のように変更される。パンツおよびニー パッドは膝を覆っていることが推奨される。》~~
- 1-4-4-h (削除) ソックス: 同一チームのプレーヤーは、同一色、同一デザインの、ソックスまたはレッグ カバーを着用しなければならない。(例外: 負傷部の保護あるいは負傷の予防のための、改造がなされていないニー プレス、テープおよびバンデージ。素足のキッカー)
~~《2023年度より、1つ目の文章は公式規則1-4-4-dとあわせ、次のように変更される。ソックスまたはレッグ カバーは、靴からパンツの下端までの全体を覆っていないといけない。すべてのプレーヤーがそれぞれの試合で同じ覆い方と色であれば、プレーヤーは複数のソックスやレッグ カバーを着用することが認められる。》~~
- 1-4-5-b-3 (変更) ホーム チームがカラー ジャージを着用する場合、ビジティング チームは次の2つの条件を満たせば、かつその場合に限りカラー ジャージの着用ができる。
(以下、省略)
- 1-4-11-d (新規) 登録選手がプレー場内にいるときに、フィールドおよびチーム エリアの上空にドローンを飛行させることを禁止する。リミット ラインの外側での飛行については、試合運営責任者(あるいは運営団体の規定)により、ドローンの使用が決定される。
- 2-2-4-a (変更) 40秒のプレー クロックの計時中は、審判員がハッシュ マーク上、または両ハッシュ マーク間にボールを置き、その後、自己の位置に~~《向かったとき》~~ついたとき。
- 2-23-1-b (変更) スナップは、ボールが正当に動かされた時点で始まり、スナッパーの手からボールが離れた時点で終了する。その後、ボールはライブとなる。(参照: 4-1-1、A.R. 2-23-1-I~II およびA.R. 7-1-5-I ~~《および》~~ II)
- 3-2-1-c (新規) ハーフタイムの時間配分は試合運営責任者によって決定される。ただし、後半のキック オフの3分前までには登録選手がフィールドを使用できるようにしなければならない。ハーフタイムに登録選手がプレー場内に立ち入る時は、そのチームのスタッフもフィールドにいないなければならない。フィールドが使用可能となる前にキッカーあるいは他の登録選手がプレー場内に立ち入る場合、その活動はチーム エリア内に限定される。すべてのチーム関係者は、予定された催しを尊重しなければならない。フィールドが使用可能となるまでは、キックの練習はキッキング ネットを使用しなければならない。

- 3-2-3-a (変更) 第2節または第4節において時間終了となったダウンで、次に定めることが1つ以上起きた場合は、節は計時しないダウンとして延長される。(A. R. 3-2-3- I ~ VIII)
- 3-2-4-a (変更) 競技時間は、ライン ジャッジ、バック ジャッジ、フィールド ジャッジまたはサイド ジャッジが操作するストップウォッチか、特定の審判員の指揮下にある助手が操作するゲーム クロックのどちらかの計時装置によって計時される。ゲーム クロックの型式および操作する場所は、試合の運営責任者が決定する。ゲーム クロックの操作員はサイドラインあるいはプレスボックスの中に位置する。操作員がプレスボックスの中に位置する場合は、その場所は両ゴール ライン間であることが推奨される。その場所は、周囲の干渉から遮断され、遮るものがなくフィールドを直接見渡せる場所で行なければならない。ゲーム クロックは、0.1秒単位の表示を行ってはならない。
- 3-3-1-b (変更) チーム タイムアウトを使い果たしたあるいは要求できないチームが、タイムアウトを要請した場合、審判員はその要請を認めてはならない。
- 3-3-2-e-1 (変更) 前後半の残り時間2分未満で、プレーの結果または罰則の適用の結果、Aチームに第1ダウンが与えられた場合
- 3-3-4 (変更) タイムアウト《を使い果たしていない場合》が残っており、タイムアウトを要求できる場合、いずれかのプレーヤーあるいはヘッド コーチからボールがデッドのときに要求があれば、審判員はチーム タイムアウトを許可し、そのチームに課す。1つのデッド ボール中の同一チームによる連続したチーム タイムアウトは禁止される。
a. 各チームは、前半、後半に3回ずつのチーム タイムアウトを取ることができる。各チームは、1つのデッド ボール中に1回のチーム タイムアウトしか取ることができない。
(以下、省略)
- 3-4-3-b (変更) 前後半終了2分未満で、得点が多いチーム(もし同点の場合はどちらかのチーム)の反則に対する罰則施行のためにゲーム クロックが停止し、レフリーのシグナルで計時開始となる場合、被反則チームはスナップからの計時開始を選択することができる。Aチームが時間を節約するために不正なフォワード パスまたはバックワード パスを投げた場合、ゲーム クロックはレディフォー プレーのシグナルで計時を開始する。
- 3-4-4-a (変更) 前後半の残り1分未満で、ゲーム クロックが動いていてチーム確保の変更前に、どちらかのチームが計時を直ちに止める反則を犯し、その反則に対する罰則が受諾された場合、被反則チームの選択により、レフリーは ゲーム クロックの残り時間から10秒減算することができる。次のような反則がこれに該当 するが、この限りではない。 (以下、省略)
- 6-3-10-c (変更) キッカーの身体のすべておよびボールがニュートラル ゾーンを越え《た状態》で、あるいは一度越えた後に、キックされたスクリメージ キックは不正なキックであり、ライブ ボール中の反則で、直ちにボール デッドとなる。
- 8-3-2 (変更) トライは、タッチダウンの後または3回目以降の超過節で、両チームに1点または2点の得点を与える機会であり、この間はゲーム クロックを計時しない。トライは、罰則施行のために、1つのダウンとその前の「レディ フォー プレー」の間を含む特別な時間となっている。

- 8-3-2-b-5 (変更) 《~~チーム確保の変更前に~~》Aチームのプレーヤーがボールをファンブルし、それをファンブルしたプレーヤー以外のAチームのプレーヤーが、ボールをキャッチまたはリカバーした場合、Aチームの得点は認められない。
- 9-1-6-a-1 (変更) 最初の位置が完全にタックル ボックスの中に入っているラインマンは、《~~スナップ直後の~~》スナップ後の最初のチャージで、タックル ボックスの中で正当に腰より下へのブロックをしてもよい。このとき、ニュートラル ゾーンから1ヤード越えた地点まででブロックを開始したときは、タックル ボックスの中とみなす。《~~スナップ直後の~~》スナップ後の最初のチャージの後、これらのラインマンはボールがタックル ボックスから出るまでの間、タックル ボックスの中で最初の接触が相手の正面の方向からの場合に限り、腰より下へのブロックをしてもよい。
- 9-1-6-a-2 (変更) スナップ時に身体の一部がタックル ボックスの中で静止しているバックはボールがタックル ボックスから出るまでの間、タックル ボックスの中で最初の接触が相手の正面の方向からの場合に限り、腰より下へのブロックをしてもよい。「正面の方向から」とは、ブロックを受けるプレーヤーが注意を払うことができる前面で、時計の文字盤の「10時から2時」で表わされる範囲からと定義される。
- 9-1-6-b-1 (変更) タックル ボックスをスクリーメージ ラインから1ヤード越えた地点まで拡張させた領域に入っていて、スナップ時に静止しているBチームのプレーヤーは、《~~スナップ直後の~~》スナップ後の最初のチャージで、タックル ボックスの中で正当に腰より下へのブロックをしてもよい。
- 9-1-6-b-2 (変更) 他のすべてのBチームのプレーヤーは、《~~ボールキャリア~~》ランナーに対する場合を除き、腰より下へのブロックをしてはならない。
- 9-1-16-a-4-(c) (新規)
スクリーメージ キック フォーメーションから、キッカーがスナップ時の最初の位置に対して5ヤードより後方にボールを運んだ、あるいは5ヤードより後方で確保した場合。
- 12-2-1-c (新規) インスタント リプレーを採用する場合、インスタント リプレーをブースで担当する審判員がいない場合でもインスタント リプレーを採用することができる。ただし、以下の例外を除き、公式規則第12篇を遵守しなければならない:
1. 公式規則12-4「インスタント リプレーの担当者、装置、場所」に対する例外:
 - ・ レフリーが最終決定者である。他の審判員1人が、追加でレビューに参加できる。
 - ・ レビューに使用する機器は、サイドラインまたはエンド ゾーンに沿ったリミット ラインの外側、かつチーム エリアの完全に外側に設置されていなければならない。
 - ・ レフリーおよび他の審判員1人がレビューを行う場所は、テントや類似の設置物の中で観客やサイドラインの関係者から遮断され、セキュリティが保証されてなければならない。
 2. 公式規則12-5「リプレー プロセスの開始」に対する例外:
 - ・ フィールドでコールされたすべてのターゲティングの反則について、レフリーは試合を止め、レビューを行う。レビューを実施するために試合を止める他の唯一の方法は、公式規則12-5-1-bに規定されているヘッドコーチのチャレンジによるものである。ヘッド コーチがレビューのためにタイムアウトを要求する場合、リプレー チャレンジ フラグをフィー

ルド オブ プレーに投げ入れなければならない。

- ・ ターゲティングの反則に対するレビューを除き、フィールド上の審判員がインスタント リプレーを始めることはできない。

3. 公式規則12-3-5「ターゲティング」に対する例外

- ・ ヘッド コーチは、チーム タイムアウトの要求が可能であり、チャレンジできる権利が残っている場合、ターゲティングに対するレビューを要求することができる。

12-5-1-b-6(変更) 前後半または超過節で残りのチーム タイムアウトがない場合あるいはチーム タイムアウトを要求できない場合、ヘッド コーチはフィールド上での判定にチャレンジすることができない。

【以下は、公式規則解説書の追加・変更項目である。】

A. R. 2-23-1 ボールのスナップ

- II. B-25から第3ダウン、5ヤード。クォーターバックA12はショットガン フォーメーションにセットした。センターは迅速かつ連続的な動作で正当にスナップの後方への動きを開始した。(a) 後方への動きの途中で、ボールがスナッパーの手からすべり落ちて、B-29でルースとなり、B54がボールをリカバーした。(b) 後方への動きの途中で、ボールを離す前にセンターは動きを止め、その後、ボールがスナッパーの手から滑り落ち、ボールはB-29でルースとなり、B54がボールをリカバーした。 判定: (a) 正当なスナップで、バックワード パスとなる。Bチームのボール。B-29で第1ダウン、10ヤード。(b) Aチームのデッド ボール中の反則。不正なスナップ。Aチームのボール。B-30で第3ダウン、10ヤード。正当なスナップとなるためには、ボールがグラウンド上の地点から迅速かつ連続的な動作で手渡しまたはパスされる必要がある。もし正当なスナップの後方への動きの途中でボールがスナッパーの手からすべり落ちた場合、バックワード パスとなり、プレーは継続する。スナップの途中で、ボールを手離さない、動きを止める、再度動きを始める、連続的な動きを止める等の動作は不正なスナップとみなされる。

A. R. 3-2-3 節の延長

- II. Aチームのフリー キック中に、第2節の競技時間が終了した。このキック時にA1がオフサイドをした。 判定: 罰則-プレビアス スポット、Bチームのラン エンド、またはタッチバックの地点から5ヤード。節は延長。再度フリー キックを行うか、Bチームが計時をしないダウンを行う。
- III. Aチームのフィールド ゴール中に、第2節の競技時間が終了した。Bチームにオフサイドの反則があった。 判定: 罰則-プレビアス スポットから5ヤード。節は延長。(参照:10-2-2-d-4-a)
- IV. トライ以外で、Aチームのプレーヤーがキックをキャッチする機会を妨害し、このダウン中に、第1節の競技時間が終了した。 判定: 罰則-反則地点から15ヤード。節は延長されず、罰則は第2節の最初に施行される。

A. R. 3-3-1 試合の一時停止

- V. B-30から第3ダウン、5ヤード。前後半の終了間隙で、両チームはすべてのチーム タイムアウトを残している。Aチームがラインについてボールをスナップする前に、Bチームのヘッド コーチがタイムアウトを要求し、認められた。タイムアウトの後、両チームがフォーメーションについてレディ フォー プレーが宣告された。(a) Bチームのヘッド コーチがタイムアウトを要求した。(b) Aチームのヘッド コーチがタイムアウトを要求した。 判定: (a) 審判員はタイムアウトの要求を認めない。Bチームはまだ2回のタイムアウトを残しているが、このデッ

ド ボールの間に既にタイムアウトを取ったので、Bチームのタイムアウトは認められない。(b) Aチームのタイムアウトは認められる。Aチームにはタイムアウトが残っていて、このデッド ボールの間にタイムアウトを取っていないので、Aチームはタイムアウトを取ることができる。

- VI. B-30から第3ダウン、5ヤード。前後半の終了間際で、両チームはすべてのチーム タイムアウトを残している。Aチームがラインについてボールをスナップする前に、Bチームのヘッド コーチがタイムアウトを要求し、認められた。タイムアウトの後、両チームがフォーメーションについてレディ フォー プレーが宣告された。スナップの前にA77がフォルス スタートの反則を犯した。Aチームに5ヤードの罰則が科せられ、第3ダウン、10ヤードとなった。両チームがフォーメーションに戻り、レディ フォー プレーが宣告された。Bチームのヘッド コーチがタイムアウトを要求した。判定：審判員はBチームのヘッド コーチのタイムアウトの要求を認めない。Bチームはまだ2回のタイムアウトを残しているが、このデッド ボールの間に既にタイムアウトを取ったので、Bチームのタイムアウトは認められない。フォルス スタートはデッド ボール中の反則なので、まだBチームがタイムアウトを取ったデッド ボールの時間が続いている。したがって、Bチームはタイムアウトを取ることができない。

A. R. 3-3-2 計時の開始と停止

- VII. A-35からAチームがオンサイド キックを蹴った。ボールが10ヤード進んだ後、(a)B21が有効なフェア キャッチ シグナルを出し、ボールをキャッチした。(b)A80が最初にボールにタッチしたプレーヤーであり、タッチと同時にボールをキャッチ、もしくはリカバーした。(c)B21がボールをキャッチまたはリカバーした直後にグラウンドに倒れた。(d)B21がボールをリカバーする際に膝がグラウンドについていた。判定：いずれのケースもボール デッドと宣告され、(a)ゲーム クロックの計時は進まない。(b)ゲーム クロックの計時は進まない。(c)審判員はボールが正当にタッチされたときに計時開始のシグナルを出し、ボールがデッドとなったときに計時を止めるシグナルを出す。(参照：3-3-2-a) (d)ゲーム クロックの計時は進まない。

A. R. 3-4-4 ゲーム クロックの10秒減算-反則による場合

- VI. 第2節、両チームは同点。スナップ時、ゲーム クロックは残り45秒であった。プレー中にA55のヘルメットが脱げた。右タックルA77はホールディングを犯した。ボール キャリアはシリーズ獲得線の手前のインバウンズでタックルされた。判定：A55は1プレー、試合から離れなければならない。プレー終了後、ヘルメットが脱げたこととホールディングに対する罰則施行のためにゲーム クロックは停止となったので、10秒減算の選択はない。プレー クロックは25秒にセットし、被反則チームの選択により、ゲーム クロックはレフリーのシグナルまたはスナップで計時開始となる。(参照：3-3-9)

A. R. 4-1-2 ライブ ボールがデッド ボールになる場合

- I. A-30で第4ダウン、15ヤード。Aチームがパントした。B44がキックを待ち受けていたがB-35でマフした。B44がキックをキャッチしたと思い、バック ジャッジは笛を吹いたが、マフされたボールはグラウンドに転がっていた。直ちにA88が飛び込んで、B-30でグラウンドに倒れた状態で、そのボールをリカバーした。キック中に、B22がホールディングの反則を犯した。判定：インスタント リプレーを採用しない試合の場合：不用意なホイッスル。公式規則4-1-2-b-3が適用される。ボールはプレビアス スポットに戻され、10ヤードのホールディングの罰則が施行される。A-40でAチームの第1ダウン、10ヤード。インスタント リプレーを採用する試合の場合：不用意なホイッスル。公式規則12-3-3-dおよびiが適用される。Aチームは罰則を辞退し、B-30からAチームの第1ダウン、10ヤード
- II. A-30で第4ダウン、15ヤード。Aチームがパントした。B44がキックを待ち受けていたがB-35でマフした。B44がキックをキャッチしたと思い、バック ジャッジは笛を吹いたが、マフされたボールはグラウンドに転がっていた。

プレーヤーが密集してパイル状態となり、ボールは見えなくなった。キック中に、B22がホールディングの反則を行なった。判定:インスタント リプレーを採用しない試合の場合:不用意なホイッスル。公式規則4-1-2-b-3が適用される。ボールはプレビアス スポットに戻され、10ヤードのホールディングの罰則が施行される。A-40でAチームの第1ダウン、10ヤード。インスタント リプレーを採用する試合の場合:不用意なホイッスル。公式規則12-3-3-dおよびbが適用される。リプレー オフィシャルはどちらのチームがリカバーしたかを決定できないため、フィールド上のボール デッドの判定のままとする。ホールディングの罰則は、ポストスクリメージ キックの規則により、B-35から施行される。B-25からBチームの第1ダウン、10ヤード。

A. R. 6-1-2 フリー キック フォーメーション

IX. A-35からのフリー キック。試合の終盤、キック チームは2点差で負けていて、オンサイド キックのセットをした。キック チームはキッカーの左に6人、右に4人のプレーヤーがいた。キッカーA90はフォーメーションの左に蹴るように位置し、ボールに近づいたときに突然止まったが、キッカーの左のキック チームのプレーヤーは走り続けて制限線を越えた。これらのプレーヤーは止まって、その後制限線の手前まで戻った。A90はすばやく方向を変えて、ボールを制限線の右側に蹴った。そのときには、すべてのAチームのプレーヤーは制限線の手前にいた。判定:デッド ボール中の反則。サクシーディング スポットから5ヤードの罰則。ルールにより(参照:6-1-2-c)ボールがキックされる時、キッカーとホルダーを除くAチームのすべてのプレーヤーは、ボールの後方にいなければならない。もしボールがキックされる時にボールより越えた位置にいた場合は、ライブ ボール中の反則で、キックオフでのオフサイドの反則である。もしAチームのプレーヤーがレディ フォープレーの後に制限線を越え、その後、ボールがキックされる前に制限線の手前に戻った場合は、キック チームによるデッド ボール中の反則で、キックオフ時のオフサイドという解釈となる。ボールがティーから落ち始めた場合は、この解釈を適用しない。(参照:6-1-2-d)ボールがティーから落ち始めた場合、審判員は直ちにホイッスルを吹いて、両チームを再度セットさせる。

A. R. 6-3-11 ゴール ライン後方のルース ボール

III. Aチームが50ヤードからスナップし、パントした。キックはニュートラル ゾーンを越え、誰にも触れられず、A88がBチームのゴール ラインを越えた地点へ手を伸ばしてボールをバッティングしてフィールド オブ プレーに戻した。B22がB-2でボールをマフし、A43がB-6でリカバーした。ボールがルース中にB77がB-10でA21をホールディングした。判定:Aチームはホールディングの罰則を受諾することにより不正なタッチに関する権利を取り消すことができる。その場合、プレビアス スポットから罰則を施行し、自動的に第1ダウン。Bチームが次にボールをプレーに移すチームではないので、B77の反則に対して、ポストスクリメージ キックの規則は適応されない。(参照:10-2-3)

A. R. 7-1-5 ディフェンス チームの条件

V. B-45から第3ダウン、2ヤード。Aチームはフォーメーションについて、スナップ直前であった。Aチームのクォーターバックはショットガン フォーメーションでプレー開始のシグナルは手をたたいて行っていた。(a) Bチームの登録選手が、(b) Bチームのコーチが、いずれの場合も手をたたいたため、Aチームのワイドアウトがフォールス スタートした、あるいはスナッパーがボールをスナップした。判定:(a)、(b)ともデッド ボール中の反則。相手を混乱させるシグナルを出したことによるゲームの遅延。[S21] B-40で第1ダウン、10ヤード。いかなるプレーヤーもオフenseのスタートのシグナルに似せた音や拍子の、あるいはその他の方法で妨害するようなディフェンスのシグナルを用いてはならないと公式規則には書かれている。この公式規則の精神は、スナップ直前に登録選手やコーチが手をたたいて、オフenseがフォールス スタートをした場合にも適用される。

A. R. 7-3-1 正当なフォワード パス

- I. A-25で第1ダウン、10ヤード。QB A12はショットガン フォーメーションについて。スナップの前に、外側に広く位置したスロット レシーバー A80はA12の方向に向かってモーションを始めた。ジェット スウィープを展開するために、スナップに合わせて、A80はA12に向かった。A12はボールをフリップした(空中に軽く放り上げた)。(a) A80はA12の前を通過するときにボールをキャッチし、前方に走り、A-40でアウト オブ バウンズに出た。(b) A80はボールをマフし、ボールは地面に落ちた。判定:A12がフリップしたことは、それが明らかに後方でない限り、正当なフォワード パスとみなす。(a) A80へのフォワード パスの成功であり、プレーの結果、Aチームの第1ダウンとなる。(b) ボールが地面に落ちたときにフォワード パスの失敗と判定され、ボール デッドとなる。
- II. A-25で第1ダウン、10ヤード。QB A12はショットガン フォーメーションについて。スナップの前に、外側に広く位置したスロット レシーバー A80はA12の方向に向かってモーションを始めた。ジェット スウィープを展開するために、スナップに合わせて、A80はA12に向かった。A12はボールをフリップした。しかし、これはジェット スウィープのフェイクで、A80は通り過ぎ、ボールにはタッチしなかった。A12はボールをキャッチし、(a) 前方に走り、A-40でアウト オブ バウンズに出た。(b) A88にフォワード パスを投げ、A88はA-40でボールをキャッチし、その地点でデッドとなった。判定:A12がボールをフリップしたことは、それが明らかに後方でない限り、正当なフォワード パスとみなす。(a) A12へのフォワード パスの成功であり、プレーの結果、Aチームの第1ダウンとなる。(b) A12によるフォワード パスのキャッチは正当であるが、A88へのA12のフォワード パスは、同一ダウン中の2回目のフォワード パスとなり、公式規則7-3-2-dにより不正なフォワード パスの反則となる。

A. R. 7-3-4 アウト オブ バウンズに出ることによる資格の喪失

- II. 正当なフォワード パスが投げられたダウン中に、有資格レシーバーA88は自らアウト オブ バウンズに出た後、インバウンズに戻るが、ボールにはタッチしなかった。かつ、どのプレーヤーもボールにタッチする前に、A88は相手からホールディングされた。判定:A88にはフォワード パスをキャッチする資格がないので、パス インターフェランスではない。罰則-プレビアス スポットから10ヤード。自動的に第1ダウン。

A. R. 7-3-9 パス インターフェランス:まとめ

- I. ニュートラル ゾーンを越えた正当なフォワード パスが、いずれかのチームの有資格レシーバーによってはじかれるかマフされた後、あるいは審判員をかすめた後、パスが空中にある間に、AチームかBチームのいずれかが、ニュートラル ゾーンを越えた有資格の相手に、ホールディングの反則をした。判定:パス インターフェランスの反則は、パスがタッチされた後は適用されない。ルース ボール中の反則として罰則が適用される。罰則-プレビアス スポットから10ヤード。Bチームによる反則の場合、自動的に第1ダウン。(参照:9-3-4)

A. R. 9-1-6 腰より下へのブロック

- IV. ディフェンス エンドB88はタックルA75の外側の肩に位置した。スナップ直後のチャージで、B88はタックル ボックスの中でA75を横方向から腰より下へのブロックをした。判定:腰より下への不正なブロックの反則ではない。
- X. A-25で第3ダウン、10ヤード。バックA21は静止してタックル ボックス内にいた。スナップの直後にA21はタックル ボックスの外側に出た。クォーター バックA12はパスのためにポケット内にいた。ラインバッカーB54のブリッツを見て、A21はタックル ボックスの中に戻り、A12がパスを投げる前にB54に対して腰より下へのブロックをした。ブロックはタックル ボックス内で、相手の正面に対してだった。判定:A21による腰より下へのブロックの反則。プレーヤーがタックル ボックスを出たあとは、そのダウンが終わるまで、タックル ボックスの

外にいとみなされる。A21はタックル ボックスの外とみなされた後は腰より下へのブロックをしてはならない。

XI. A-25で第3ダウン、10ヤード。左タックル A77はタックル ボックスの中に位置した。デフェンス B55はエッジ ラッシャーとして、スクリメージ ラインの近く、A77のちょうど外側に位置した。スナップ後、A77はパス プロテクションのために数歩下がり、B55はパサーに向かってまっすぐに入った。B55のスナップ後の最初のチャージの間に、A77は、ニュートラル ゾーンの後方で、B55の横から腰より下へのブロックをした。A77の片足は、ブロックを始めたとき、タックル ボックスの中にあつた。判定:A77の正当なブロック。A77の動きは、スナップ後の最初のチャージとみなされ、相手の正面からのみという腰より下へのブロックの制限を受けない。スナップ後の最初のチャージの後の行為は、それが明らかな第2の動きである場合は、A77の腰より下へのブロックは、タックル ボックスの中で、相手の正面からのブロックでなければならないという制限を受ける。

XII. A-25で第3ダウン、10ヤード。左タックル A77はタックル ボックスの中に位置した。デフェンス B60はスクリメージ ラインの近く、A77の内側で、左ガードの正面に位置した。プレーは右方向へのスウィープが展開され、B60がスナップ後の最初のチャージでプレーを追いかけたときに、A77はスナップ後の最初のチャージで右の方に動き、B60の横から腰より下へのブロックをした。判定:A77の正当なブロック。A77のアクションは、スナップ後の最初のチャージとみなされ、相手の正面からのみという腰より下へのブロックの制限を受けない。スナップ後の最初のチャージは歩数には関係なく、第2の動きであるかどうかの判定となる。スナップ後の最初のチャージの後の行為で、それが明らかな第2の動きである場合は、A77の腰より下へのブロックは、タックル ボックスの中で、相手の正面からのブロックでなければならないという制限を受ける。

XIII. A-25で第3ダウン、10ヤード。バックA21は静止してタックル ボックス内にいた。スナップの直後にA21は前に動いて、ニュートラル ゾーンを1ヤード越えた地点でブリッツするラインバッカーをブロックした。それは相手の正面に対する腰より下へのブロックであった。判定:A21による正当なブロック。ニュートラル ゾーンを1ヤード越えた地点で開始される場合は、ラインおよびバックのタックル ボックス内でのブロックとみなし、他のすべての条件を満足する場合は正当な腰より下へのブロックとなる。

A. R. 9-3-4 ディフェンスによるホールディングと手または腕の使用

III. A-35で第4ダウン、12ヤード。Aチームはスクリメージ キック フォーメーションからパントを蹴るフォーメーションを取った。スナップ直後、B55は右タックルA77をつかみ、横に引いた。B21はそのギャップから入ってパントをブロックしようとした。パンターはボールを蹴って、B-35でデッドとなった。判定:B55によるホールディング。この反則はキックの前に起きていて、罰則はポストスクリメージ キックの施行とならない。プレビアス スポットから10ヤードの罰則で自動的な第1ダウンを含む。A-45からAチームの第1ダウン、10ヤード。

IV. A-35で第4ダウン、12ヤード。Aチームはスクリメージ キック フォーメーションを取り、ガナーのA88はフォーメーションの右の外側に位置した。スナップ後、B21はガナーA88を妨害し、その後キック中にA88がフリーになるうとした際にホールディングした。パントはB-35でデッドとなった。判定:B21によるホールディング。この反則に対する罰則はポストスクリメージ キックの施行となり、ポストスクリメージ キックの地点が施行基準点となる。10ヤードの罰則はキック エンドから施行される。B-25からBチームの第1ダウン、10ヤード。

以上